

★定時上映

2026年4月25日(土)~7月12日(日)の土日祝

テーマ番組「からす座のおはなし」

夜空にまぎれる、まっくらカラス。カラスも星座になっています。
夜空のカラスは、かつてピカピカの羽根を持っていました。
ちょっとあわてんぼうなカラスのお話です。

星空解説「今夜、なにがみえるかな」

北斗七星が北の空に昇るようになると春が近いことを感じられます。
季節の星座は木々の彩りや気温の変化より先に、季節の移ろいを教えてくれています。春の夜空に輝くおおくま座や
おとめ座、そしてしし座など、春の星座を紹介します。

脚本・演出：駒井仁南子 プログラム：佐藤幹哉

☆土日祝の 上映時間	テーマ番組 10:00~/13:00~/15:00~/ 星空解説 11:00~/14:00~/16:00~/ 各回とも約20分
---------------	---

- ・定員：各回先着50名(上映1時間前から発券)
- ・料金：高校生以上100円(中学生以下無料)
- ☆平日のみ団体上映を受付(2日前までに要予約。ただし、休館日を除く)

★星空たんけん観望会

ハイアマチュア望遠鏡
& 電視観望!

春の星座と月を見よう

日時：5月23日(土)

18:30 受付開始
19:00 ~ 19:30 天文教室
19:30 ~ 20:30 星空観望会



費用：100円(中学生以下無料)
定員：50名(小学生以下保護者同伴)
申込：5月7日(木)~5月22日(金)
水の館 Tel 04-7184-0555

★星空コンサート

星空とJ-POP

日時：6月21日(日)

開演 ①13:00~ ②15:00~
※開演1時間前から手賀沼課にて発券開始
費用：300円
定員：50名

※当日の定時上映はありません

手賀沼周辺の
イベント情報

えんじょい でがぬま

Enjoy 手賀沼!

5/10 2026 日

こがぬま

イイじゃん!

会場/手賀沼親水広場
鳥の博物館 水の館

<https://abiko-city.jp/enjoy-teganuma/>

時間 9:00~15:30 雨天決行(一部中止・変更あり) 入場無料 鳥の博物館、水の館プラネタリウム 入館無料



©NASA

M51 (子持ち銀河)

北斗七星の先端近くに見える銀河です。
大きな銀河と小さな銀河が合体しているところです。

親子連れの銀河、
可愛いうな~



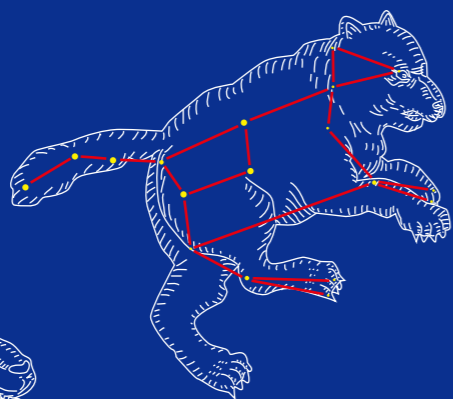
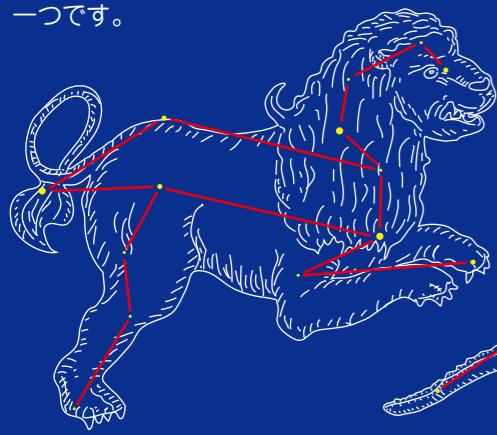
我孫子市マスコットキャラクター
手賀沼のうなぎちゃん

星座の物語 ～春に見られる星座～

冬の夜空に輝いていた明るい星々が西に沈み、少し落ち着いた春の星々が夜空に輝きます。輝きは少しおとなしいのですが、星が形作る星座は雄大で印象的な姿をしています。春の夜空を彩る星座をいくつか紹介しましょう。

しし座

黄道 12 星座のひとつです。台形に似た星の並びは春の夜空に印象的で、ししの胴体をつかさどっています。ゆっくり眺めると、星座絵に描かれているように首や頭の部分も追えるようになります。一度分かると、次もすぐに見つけられる分かりやすい星座の一つです。

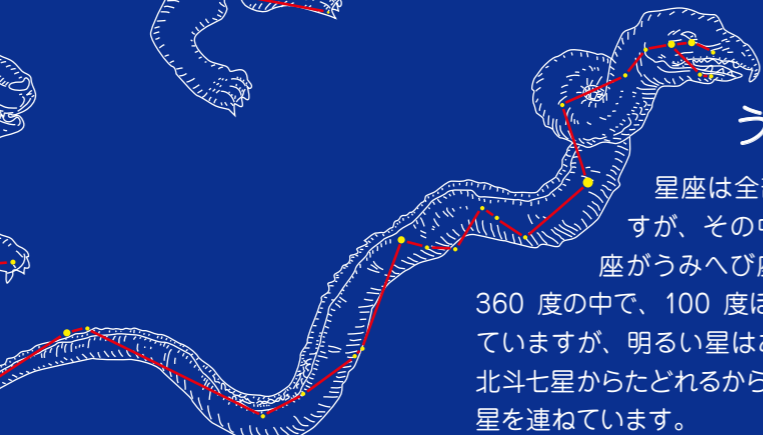


おおぐま座

一般的には北斗七星と呼ばれる星の並びを含んだ星座です。北斗七星はおおぐま座のしっぽの部分にあたります。実際の星空で見ると北斗七星も随分大きく感じますが、おおぐま座はその2倍くらいもあります。そしてこの北斗七星の星の並びは春の星座を知る目印にもなります。

うみへび座

星座は全部で 88 個ありますが、その中で最も大きな星座がうみへび座です。東西南北 360 度の中で、100 度ほどの幅に横たわっていますが、明るい星はあまりありません。北斗七星からたどれるからす座の下に暗めの星を連ねています。



天文イベント

4月23日 こと座流星群の極大

こと座流星群は、毎年見られる流星群の一つです。その歴史はたいへん古く、紀元前 687 年に中国で観測されたのが最初の記録だとされています。今年は 4 月 23 日の夜明け前に 1 時間に 10 個から 15 個位の流星が期待されています。

5月31日 今年最小の満月

月は地球の周りを楕円軌道でまわっています。その為、近いときは大きく、遠い時は小さく見ることになります。満月で比較

すると、今年最も近くなる 12 月 24 日の満月に比べ、この日の満月は面積で 24% も小さくなっています。

6月9日前後数日 金星と木星が接近

日の入り後の西の空に、宵の明星の金星と太陽系最大の惑星である木星が輝いています。そんな二つの惑星が 8 日から 10 日にかけて、西の空で接近します。マイナス 4 等の金星とマイナス 1.9 等の木星が並ぶ様子は目を引くことでしょう。

星空ギャラリー

水の館プラネタリウムの入り口奥にある番組テーマに沿った展示スペースです

メソポタミア地方やギリシャ、そして中国などでは古くから星座の物語が語られてきました。しかし実際の星空を記した記録はあまり残っていません。現存する世界最古の天文図は奈良県にあるキトラ古墳の天文図だと言われています。古の人が描いた天文図を紹介します。



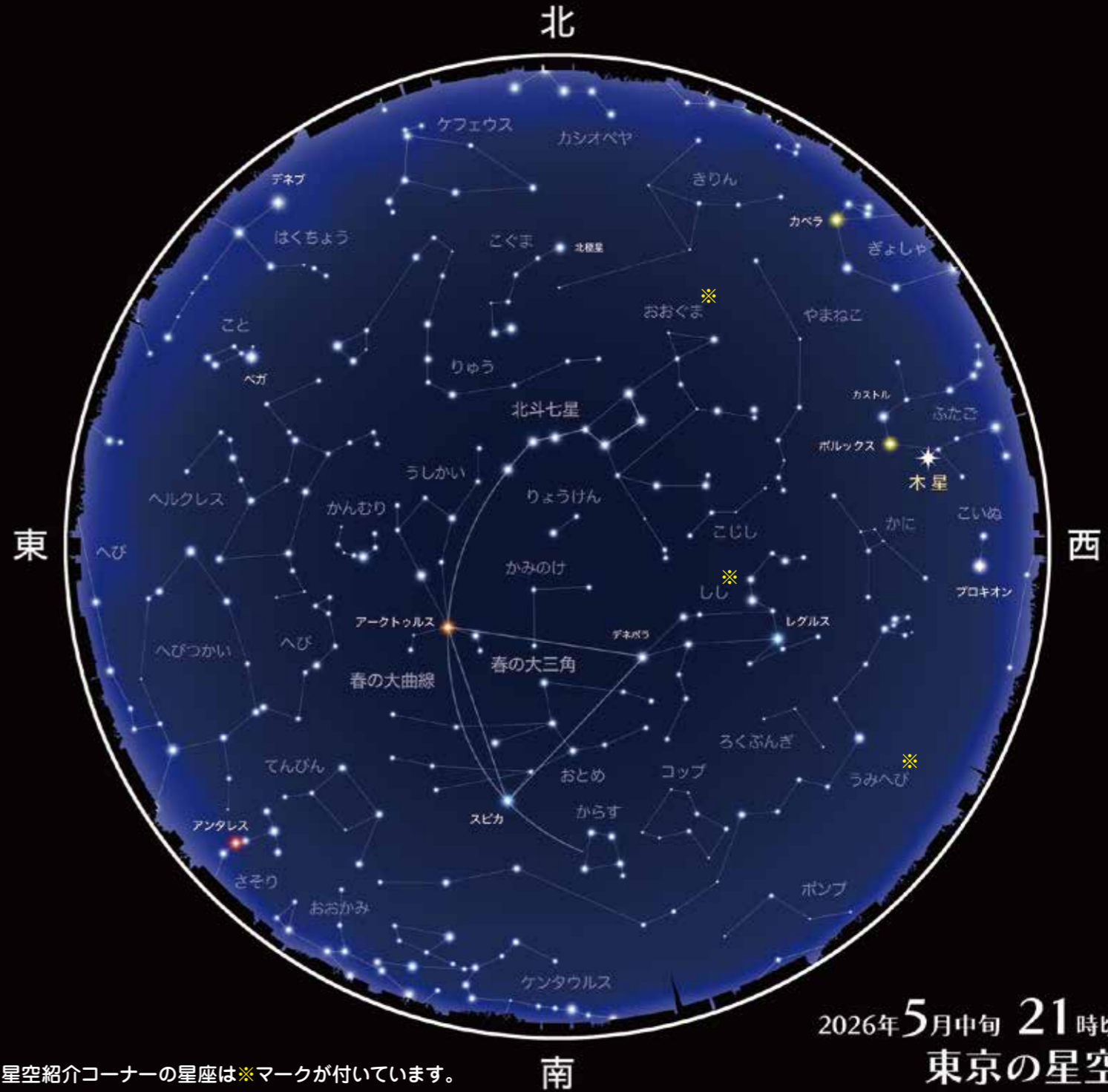
天文図



キトラ古墳の様子

展示構成：株式会社きら

「世界最古の星図。キトラ古墳天文図」



星空紹介コーナーの星座は※マークが付いています。

2026年5月中旬 21時頃
東京の星空

天文ニュース

「史上三例目の恒星間天体の発見」

恒星間天体とは、太陽系の外からやってくる天体のことです。どこか遠くの宇宙から、ものすごいスピードで太陽系を横切り、そして太陽系を飛び出していきます。天文学者はこの間に、この天体がどんな成分でできているのかを観測して、星がどうしてできたかや、太陽系の起源などをさぐろうとしています。

星空ミニクイズ

春に見える星座「からす座」の星の並びはちょっと傾いた四角形をしています。昔の人はこの形をなにに見立てていたのでしょうか？

- ① 船の帆に似ているので「帆かけ星」
- ② 鳥居の形に似ているので「神社星」
- ③ 小さくまとまった四つの星なので「四つ葉星」

答えは水の館プラネタリウム入り口付近にあります

今号のスタンプ

スタンプは水の館プラネタリウム前にあります。